



森田 実の

永田町風速計

総選挙前の政界再編の可能性——
注目すべき亀井静香氏の「救国戦線」の訴え

「千丈の堤も蟻穴より崩るる」『韓非子』

現在の日本の政局は、自民・民主の2

大政党化↓総選挙後の自民・民主大連立に向かつて動いている。2007年夏の参院選後に小沢一郎民主党代表が仕掛けた「自民・民主大連立」は、一時休眠しているにすぎない。総選挙後に「大連立」が復活する可能性は極めて高いと私は予想している。総選挙で自民・民主両党のどちらが勝利しても政局の安定は実現しない。政局の安定のためには政界再編を実行せざるを得ない。

1990年代初期以来、日本の政治はアングロサクソン型の2大政党制を目指してきたが成功しなかった。

第45回衆議院議員選挙が行われる時期が近づいている。この総選挙を前にして第1党の自民党と第2党の民主党の力が拮抗している。衆議院総選挙でどちらが第1党になるか、予想困難の状況になっている。1990年代に着手した中選挙区制度から小選挙区制度への移行の目的だった「選挙による与野党間の政権交代」が可能になる状況

がようやく生まれた。

ところが自民・民主両党とも本音レベルで考えているのは、アングロサクソン型の恒久的な2大政党制の確立ではなく、大連立、中連立を含む政界再編成である。大連立が復活する可能性は極めて高いのである。

こんな中、政界に一石を投じているのが「総選挙前の政界再編成」を提唱する亀井静香国民新党代表代行である。亀井氏を訪ねて話を聞いた。

政界再編成は総選挙前に行われなければならない

—— 総選挙前の政界再編の可能性は？

亀井 国民と政治との関係において大事なものは政策だ。総選挙が行われた後、新政府がどのような政策をとるかを重視しなければならない。

今のまま総選挙が行われたとき、自民党が勝っても民主党が勝ってもあまり変化はない。今のままでは両党に大

きな政策上の違いがないからだ。

自民党にはネオコン・市場原理主義者・小泉構造改革支持者が少なくない。少数の修正資本主義の支持者はいるが、総選挙後に大きな政策転換がなされる可能性は少ない。民主党の場合も同様だ。民主党内にもネオコン・市場原理主義者は少なくない。世界の大変化



亀井静香・国民新党代表代行

に立ち向かう明確な政策はない。

小沢代表は今は国民新党と社民党との協力を重視し、政策面での歩み寄りはあるが、総選挙後とりわけ政権の座に就いたときは本性（ネオコン・市場原理主義者）をむき出しにする可能性がある。そうなったときは、社民党と国民新党は民主党に協力しない。民主党単

独では参院で過半数にはならないから政局は不安定化する。

従って、政界再編は総選挙後ではほとんど無意味だ。総選挙後の政界再編成は大連立、中連立を含めて「烏合の衆」化する可能性が高い。政界再編成は国民のために行われるものでなければならぬ。世界経済危機に対してどう立ち向かうかについて、政党リーダーと政治家は自らの信念と政治理念を明らかにした上で総選挙前に政界再編成を行うべきだ。

世界危機に立ち向かう
態勢を構築するために

—— どのような形の政治の軸をつくろうとされているのか。

亀井 世界大危機にわれわれはどう立ち向かうべきか——新たな政策理念に基づいて政界を再編成する必要がある。少なくとも、すべての政治家は総選挙において「ネオコン・市場原理主義、小さな政府、小泉構造改革」の路線に立つか、「修正資本主義、ネオコン反対、市場原理主義反対、小さな政府反対」の路線に立つかを明らかにし、国民に示すべきだ。

世界経済危機打開のため、日本政府

はリーダーシップを発揮すべきだ。同時に新しい世界システム構築のために先頭に立つべきだ。日本政府は世界の新しい協調体制をつくり上げるために全力を尽くさなければならない。

政策の基本理念は「修正資本主義」だ。このためにわれわれは新たな政治グループの形成を模索しなければならない。われわれは経済危機打開のための「救国戦線」結成を検討すべき時機にきている。新たな修正資本主義に立脚した危機突破のための「救国戦線」の結集を呼び掛けたい。

* * *

相変わらず私は毎日のように全国各地を回っているが、「麻生（自公）はもうたくさん。小沢（民主）も好きになれない」という人が急増している。有権者の無党派（政治的中立）化が急速に進行している。彼らが求めているのは「麻生」か「小沢」かではないもう一つの新たな軸である。

どうやら総選挙の時期は延びそう。これによって生ずる「時間」が第3の道「救国戦線」を可能にするかもしれない。